

第 17 日目（3 月 13 日）

○議 長（小澤 実君） おはようございます。延会前に引き続き、本会議を再開いたします。

○議 長 ただいまの出席議員数は 22 名であります。これから本日の会議を開きます。
なお、病院事業管理者、公務のため欠席、副市長、公務のため午前中欠席の届けが出ておりますので報告いたします。

[午前 9 時 30 分]

○議 長 日程第 1、第 7 号議案 平成 31 年度南魚沼市一般会計予算の審議を続行いたします。

○議 長 教育費に対する質疑を行います。

9 番・桑原圭美君。

○桑原圭美君 おはようございます。質疑させていただきます。2 点ございます。

1 点目が、207 ページの教育改革推進事業費臨時職員賃金で、学校図書室の司書 3 名ということで、非常にいい予算だと思います。それで、この 3 名の方がどういったところに配置されて、どのようなことをするのかお聞きしたいと思います。

2 点目が 217 ページ、子ども・若者育成支援センターの改修費でございます。こういった施設が塩沢保育園のところに入ってくるということは、非常に私としても歓迎すべきことだと思います。期待しております。これがどのようなスケジュールで今後進んでいくのか、お聞きしたいと思います。

○議 長 教育部長。

○教育部長 1 点目の質問でございますが、学校図書館の司書の配置でございます。昨年度から図書館のほうで学校の図書館と連携する司書を 1 名配置しまして、八海中学校を中心に活動を進めてまいりました。このたび 3 名を配置しまして、各大和地域、六日町地域、塩沢地域、3 地域の小中学校を中心に活動してまいる予定になっております。内容といたしましては、図書の整理はもとより図書館の諸事務を行いまして、読書活動の推進事務を行ってまいる予定でございます。

2 番目の子ども・若者育成支援センターの移転の関係でございますが、今後の予定といたしましては、春に改修委託の設計業務を発注いたしまして、いろいろ承認許可を経た中で地元協議等を進めてまいりまして、できれば来年度に改修工事を行いまして、来年度の移転を計画しております。以上です。

○議 長 11 番・清塚武敏君。

○清塚武敏君 216、217 ページ、小学校管理一般経費の中で 2 点、そのほかで 1 点、3 点質問いたします。

臨時校務員賃金という予算が上がっておりますが、考え方がどのような考えでなっているのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

もう 1 点は、エアコンが設置を——電気料であります、その辺を見据えた電気料金の予算

組みなのか、教えていただきたいと思っております。

もう1点は222、223ページ、小学校設備等整備事業費であります。その中で教育パソコンリースというのがありますが、次年度、平成31年度につきましては、どのような具体的な取り組みに力を入れていくのか。来年、再来年でしょうか、2020年からコンピューターのプログラミングでしょうか、が必修というようなことも聞いております。ソフト面での整備等も今後見据えていくのか、その辺も教えていただきたいと思っております。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 1点目の臨時校務員のことでございます。これにつきましては、正職員が配置できない学校につきまして、必要な臨時校務員を配置するものであります。来年度は15名を予定しております。

2点目、電気代のことでございます。エアコンの設置が予定されているということで、今年度、平成30年度八海中学校での実績を加味しまして、おおよそエアコンで0.6か月分の電気料が増えるだろうという見込みで計上したものでございます。

3点目、パソコンリース料ということでございますが、プログラミング教育につきましては、ご指摘のとおり2020年度からということになっております。現在、私どものほうでも既に取り入れているソフトウェアの中に、このプログラミング教育に対応するものがございますので、今、各校に配置しているICT支援員の方々が、既に先生方のほうに使い方につきましていろいろな指導を行っているところであります。平成31年度につきましては、これを増やしていく。そして学校の先生方が自信を持って、2020年度から取り組むことができるように、現在取り組んでいるところでございます。

○議 長 11番・清塚武敏君。

○清塚武敏君 1点目、そして3点目はわかりました。エアコンの電気代、0.6か月分ということではありますが、昨年と比べると257万円くらいの増かなと思っておりますので、おおよそそれくらいと見積もっていたと考えてよろしいのでしょうか。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 来年度は1校、校数が減るということもありまして、その差し引きということでお考えいただきたいと思っております。

○議 長 6番・田中せつ子君。

○田中せつ子君 1点伺います。223ページの小学校整備費ですけれども、ここはプールとか統合の件とかいろいろ出てくるのですけれども、学校のトイレについては出てきておりません。小中学校のトイレの改修についても責任を持って計画的に進めるというお話があったかと、私は記憶しているのですけれども、総合計画のほうにもまだ3年間の計画の中にも出てきていませんし、ここにも出てきません。ふるさと納税も順調に伸びていまして、市民としますと、その使い道についてとても期待しているところがありますので、市民会館のほうのトイレ改修が終わりましたし、いよいよ小中学校のほうにくるかという期待もあるわけですけれども、その計画の進捗状況について伺います。

○議 長 教育部長。

○教育部長 学校のトイレにつきましては、特に今まで平成25年度くらいからは大規模改修のときに水洗化、増設等を考えておりました。ところが、平成27年ごろの大規模改修から、我々が補助金を利用しまして、交付金を利用しましていろいろ改修を進めてきてところでございますが、それが不採択になったということで、ちょっとそこら辺、頓挫してしまいました。今後も当然トイレの不足、また水洗化等を進めてまいらなければなりませんので、総合計画の実施計画には順次上げてまいりたいと思いますし、いろいろほかの校舎整備等もございまして、その兼ね合わせも含めまして総合的に考えて実施計画に搭載して整備を進めてまいりたいと考えております。以上です。

○議 長 6番・田中せつ子君。

○田中せつ子君 全体的な進捗状況というのは、今、伺ったところでわかるのですが、国は幼児教育の無償化を進めようかというくらいのところで、義務教育の小中学校のトイレというところも大変優先度としては高いところだと思うのですが。

実は大崎小のPTAと後援会のほうから要望書が出ていると思います。これについては和式か洋式かという問題ではなく、それ以前に数が足りないという大変深刻な話で、これももうずっと前から出ていた話ですが、きちんとした要望書が今回出まして調査とかもされていて、内容が何かと言いますと、3階のトイレの数が足りないということです。図書室の端、南の端に女子トイレが2つ、男子トイレは小便器が2つ、個室が1つという。そこが3階が一番クラス数とすると多いところですが、それが子供の休憩時間に休憩になった途端に、走ってはいけない廊下をみんなが猛ダッシュで、2階の一番反対側の北の端のトイレまで走って行って順番を待つ。結局、授業が始まるのに間に合わない生徒まで出てきているという。

本当に和式か洋式か以前の問題で、未来を担う子供たちを大切に育てていく中で、このトイレの問題というのは健康にもかかわる部分でありまして、本当に優先度は高い。早急に着手をしていただきたいところだと思うのですが、それがまだまだこれから総合計画に載せたりという、これからの話になってしまうということです。

ふるさと納税も順調に行って、それを何に使うのかというところ。本当に市民も期待をして見ているところですので、もう少し急いで着手すべきではないかと思うのですが、もう一度お願いします。

○議 長 教育長。

○教育長 ご指摘のとおりであります。教育委員会の力不足を含めて、まずお詫びをしたいなと思っております。私はその要望について現地を確認はしておりますし、この案件については市長も心を痛めておりまして、自分も現地へ行くのだという流れになっております。

前年度も総合計画に上げたのでありますが、いろいろの経過がありまして、ちょっと上げることができないということで、来年度は必ず上げて早期の発注に向けて頑張ってもらいたい。今、私の言えることはこれだけありまして、それを超えて頑張るという気持ちがあることをお伝えして答弁にさせていただきます。申しわけありません。

○議 長 6番・田中せつ子君。

○田中せつ子君 しつこく聞いて申しわけないのですが、大崎小の正面玄関入ってすぐのところに見取り図があって、そこには最初に建てる時には3階のところも1階、2階と同じようにトイレができる予定になっていて、カラーできれいにそこにはトイレがあることになっているのです。そこがスタッフルームになっていて、トイレは実際には——先ほど言われた補助金がつかなかったとか、いろいろな経過があるのかもわからないのですが、あるべきところがないという状況ですので、かなり異常ではないかなというふうに思います。これから上げるのだと、1年また待たなければいけない。子供たちはどんどん成長して行って卒業していきますので、何とかそこは補正なりということも考えた上で、対応できないものかなと思うのですが、そういった可能性についても……。

○議 長 田中議員、田中議員、ちょっともうかなり答弁をいただいている部分で、さらなる部分がもうないという状況だと思いますが。

16番・中沢一博君。

○中沢一博君 3点お伺いいたします。先ほど同僚議員からもございましたように、小中学校の光熱費の件、エアコンの部分であります。これは、多分、教育委員会のほうも情報が入っているかと思うのですが、各学校ともエアコンにした場合、電気代がかなりかさむと。自治体の要するに財政の圧迫をするということで、国のほうで今補填を考えているというふうに私は聞いているのですが、その点、教育委員会はどのように把握されているのか。例えば先ほど0.6か月分だというふうな形がございました。やはりここをきちんとして、もらえるものはもらっていく——言葉は悪いですが、そういう態勢をきちんと今から準備していたほうが、私はいいのではないかと思うのですが、その点どのような情報等が入っておられるか。また、数字等がもっと具体的に出ているのか、お聞かせいただきたいと思っています。

2点目であります。237ページであります。これは高齢者の学習活動参加促進事業の件であります。これは、209ページの土曜日の教育支援、また217ページの放課後子ども教室、その部分も頑張っていたいただいているわけですが、この部分、高齢者の方が本当に社会に参加という部分では私はいいことだと思うのですが、もう少しちょっとどんなことをされているのか、お聞かせいただければありがたいと思っております。この部分、これから教育現場の先生方の少しでも時間を軽減するためにも大事な部門かと思っておりますので、ちょっとその部分、ちょっと勉強不足で恐縮でございますが、もう少しお聞かせいただきたいと思っています。

3点目、最後であります。251ページのディスプレイの改修整備事業の件であります。ここに700万円載せていただいております。施設修繕工事費ということで載っておりますけれども、ボールの部分だとかそういうことをお聞かせいただきましたけれども、多分私も入っていると思うのですが、あえて確認の意味で聞かせていただきたいと思うのですが。

9月議会のときに、駐車場の関係ですごく少なくて協会の市民大会を中止せざるを得ないという部分の中で教育委員会の皆さんから本当に頑張っていたいただいて、その協会からは大会も無

事開くことができたということですので喜んでいただいています。そうした中で同僚議員からいろいろありましたけれども、冬場の坂戸山の登山等が多い中で、やはりその駐車場の整備という部分。庭がありますけれども、その部分を多分考えていられるのではないかと思うのですけれども、駐車場という部分は、この予算の中に入っているのかどうかお聞かせいただきたいと思っています。

○議 長 教育部長。

○教育部長 1 番目の質問でございますが、まことに申しわけありません。今のところ私どものほうにはその情報が入っておりません。ただ、そういった部分で補助がいただけるものであれば、私どももその補助金をいただくように進めてまいりたいと思いますし、特にエアコンにつきましては、今まで言われていますとおり、一応ルールを決めまして節電に努めて、やみくもに冷やすのではないように考えておりますので、ご理解いただきまして節電に努める中で、また補助金を活用できるところは活用してまいりたいと思います。

2 番目の質問については、社会教育課長をお願いします。3 番目の質問でございますが、ディスポートの今回の施設修繕工事につきましては、ディスポート内の廊下、あとはプール等の工事の予算でありまして、議員おっしゃる駐車場の整備の予算は入っておりません。以上です。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 高齢者の学習活動の内容ということでございますけれども、これは旧大和地区、六日町地区、塩沢地区、それぞれ高齢者の自主的なサークル活動ということで活動しておりまして、大和は生きがい学習会、それから六日町はしゃくなげ学級、塩沢は高齢者趣味の教室ということで活動しております。内容としましては、例えば民舞であるとか、ダンスであるとか、俳句であるとか、そういうものをそれぞれクラブをつくった中で自主的な活動をしている。その講師に來ている先生について、我々が予算的に応援をしているというところでございます。以上でございます。

○議 長 教育長。

○教育長 2 点目のディスポートの駐車場の件に関しては、ご指摘を受けて 1 年間乗り切ってきた件と、今後どういうふうなことを考えているのか、生涯スポーツ課長が来ていますので、説明させていただきます。

○議 長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 議員ご指摘の駐車場の件につきましては、担当課としても指摘を受けまして状況を確認しました。非常に悪い状況だというふうに理解しております。それで今、予算措置につきましては、非常にローリングが重要な形になっておりまして、ローリング自体が 6 月から始まるのですけれども、6 月くらいに始まったローリングを受けて、最終的に次年度の予算に反映していくということで、ことしの 6 月のローリングに乗った形の中で、平成はもうないですが、平成 32 年度予算で反映できればということで今計画しております。予算的にどの程度かかるかという部分の計算のほうは既に始めておるところです。以上です。

○議 長 20 番・塩谷寿雄君。

○塩谷寿雄君 ページ数 205 ページ、いじめの問題です。全国的に痛ましい事件がいろいろ報道される中で日中、一番子供たちとかに接触しているのは先生かなというふうに思います。そういう中でいかにそれを感じとるのかは、先生がすごく大切なのではないかなと思うのですが、平成 31 年度、平成 30 年度いろいろあった中で、うちとしてはどういう、またさらなる対策、思いがあればお聞かせいただきたいと思います。

ページ数が 223 ページです。小学校の大規模改修、第一上田小学校と第二上田小学校が合併します。18 校にかかるエアコンが入りますけれども、この 2 校につきましては、手前ではしない。予算がこうついていて、夏休みから入るということですが、ほかはエアコンが入るけれども、その 2 校に対する対策ですね、ここはまだ入らないわけなので。第一は保護者などのあれで扇風機が入っていると聞きますけれども、その対策がこの 2 校に対して何かあるか、お聞かせいただきたいと思います。

その下のプール改修工事です。市長はいろいろな場面で、アメリカなどはなかなか学校に 1 個プールがないと。いろいろなことをやってここにすごいかいプールをつくって、みんなで今度は入るような形にしたいなどということを書いていたりもするのですが、やはり補正でこういうのが出てくると、そこを守っていかなければいけないというようなこともあるのですが、そうするとなかなかかいプールというのが難しいかなと思うのですが、どう考えているか、お聞かせいただきたいと思います。

229 ページ、支援学校です。グラウンド、緑地、プールということの話の中で、後ろに道が通ると。それがなかなか改修できないと、その中には手がつけられませんというようなことをずっと言っておられるのですが、そこがなかなか進んでいないと。実際的な、道ができるのかできないのか。できる予定なのでしょうけれども、具体的に何年にできるというの、はっきりちょっと示されていないと思うのですが、そういう中でもうそろそろ立ち上がって 10 年近くなる学校になってきますよね。そういう中で本当にそのことをやはり考えていかなければいけないと思いますけれども。

また、今、学校に歩いて通ってきている子供もたちもいます。目の前の道はなかなか歩道があるけれども、狭くてないような感じです。横に行けば、あそこの 291 号に行けばかなり太い歩道があるのですが、そういう中で後ろの工事が進まないのであれば、今言った学校の中の施設のことと、歩道整備というものをすぐやったほうが安全かなと思うのですが、その点についてお聞かせいただきたいと思います。

あと、245 ページです。施設公社に正職が 5 人、臨時が 3 人、パートが 1 人ということで、この間も指定管理のときに、今ここで 4,200 万円くらいの予算が人件費補助という形で行われるわけですが、今後は指定管理の原理原則から言えばいろいろ考えていかなければいけないというような答弁をいただいていますけれども、やはりこれだけの人件費で補助が出ているということはすごい給料だなというふうに思っています。

こういうことをどうやって変えていくかというのをやはり検討していくべきで、お金をこれだけもらってれば多分誰が指定管理を受けてもできるのではないかなと。そこがやはり指定

管理の原則だと思しますので、そういうことを本当に考えていかなければいけない中で、この金額というものをどうやって今度変えていくのかというのが、年度ごとに、その次の指定管理に行くまでにどうするのかというのが問題だと思うのですけれども。その点どう考えているかお聞かせいただきたいと思ひます。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 1点目のいじめの対策ということでございます。これにつきましては、なかなか尽きることのない問題かなというふうに考えておりますが、今年度60日間雇用する予算でやってまいりましたスクールソーシャルワーカー、これが来年度から151日に増やして手厚い体制がとれそうだということになりまして、今年度の予算に入れさせていただいております。教育相談の指導主事とあわせて要保護児童対策地域協議会を含め、困難な事案に何とか挑戦していくって打開の道を開いていきたいというふうに考えております。

○議 長 市長。

○市 長 プールの件、議員ご指摘の部分、向こうは答えられないので言ひます。決して決まったとかそういうことではないのです。ないのですけれども、私としては市長職というのはある種政治を語るというか、将来のことをいろいろ語る仕事もあるので、私の思いをいろいろな場面で、こうではないかなと、こういう方向を目指すべきではないかということをお言ひしていることなので、誤解しないで聞いてもらいたひのです。

今回の223ページのプールの改修とは全く別物ですが、議員がおっしゃるとおり、世界中で学校1つずつ、例えばですね、これが全部の旧村の単位で学校があるわけだ。そこにプールが全部あるというのは、我々は当たり前だと思ひています。韓国もこれから例の水難事故があつて、これから増やしていくということをよく聞きます。泳げない人が多かつたのですね。日本も実はプールがいっぱいできてきたのは、海難事故がきっかけで全国にプールができてきたということも、歴史的には同じ道を歩んでいる、韓国もです。

ただ、世界的な視野から見ると、あなたの国はリゾートですかと言われるような部分も本当にあるわけだ。これは非常によかつたし、今もいいのです。いいのですけれども、今、教員の多忙化の問題や地域の人口減の問題、さまざま考えたときに、私の中の思いは、学校単位にプールがあるという時代は、やはりこれから将来を見渡したときにどうだろうという思いがあります。それよりもきちんとした50メートルプールが確保されていて、そこに本当に教える指導員がきちんといて、そういうところをこれからやっていくべきではないかなという話を政治的なテーマとして話をしている。

プラス加えれば、今ごみ処理場をやっていますが、あそこでできる熱エネルギーの中で、まだ誰もそういうことを言ひしていませんけれども、決まっていなひですよ。決まっていなひですけども、本来そういうところにこういう政治課題を投げかけて——エネルギーが発生するわけですから——そういうところをやはり将来目指してコンパクトなそういう公の施設を集約しつつ、そしてさまざまな問題を解決していくことにつながればなという思いで発言していることなので、ひとつこれは誤解のないように聞いていただきたいと思ひます。

○議 長 教育長。

○教育長 2点目と4点目についてお答えし、補足については部長、課長が説明します。

まず、上田の小学校2校についての対応であります。教育委員会にはどうなっているという保護者からの要望等は入っております。2校の校長先生のほうにお聞きすると、その反響についてはあまり大きくはない。要望はそれほどではないよという話がありますが、そうは言っていられませんので、両校長を含め、我々とはその対応についてどうするかということで検討はしております。残念ながら、今回のエアコン設置の予算の中に入っていないので、その予算ではできません。統合する上田については、今回の改修の中でしますが、時期が外れての設置になります。第二上田については——第二上田も第一もですが、今既存で冷房のついている部屋をうまく活用しながら回して対応していきたいという協議はしております。第二上田のほうは、その年々で違うのですけれども、かなり涼しいという——校長先生から、うちは夏も涼しいのだよという話は聞いておりますが、そうであったとしても、慎重に検討してまいりたいというふうに思っています。今扇風機はついているのですけれども、扇風機だけでは足りないので、大きな扇風機とか設置型のやつをリースすると、今検討を進めている状況であります。

総合支援学校のグラウンドについて、今ご指摘のとおり裏の田んぼのところは買う予定できております。これは大きな課題でありますので常に建設部とは協議して、国の土地、国との関係、補助事業があるので、その2つの事業を年度で分けるというのが、なかなか邪道というか、うまくないというか、いい策ではないということで、なるべく早く都市計画道路ということで、2つの部を超えて今協議しておりますが、なかなか見えないのが現状であります。

ご指摘の点について今後詳細に検討しながら、どういう対応ができるのかということは検討してまいります。今のところ学校、保護者のほうからは、要望が全然ないというわけではありませんが、その部分を緊急に強くという要望が運よくございませぬので、遅くならないような対応を今のところはしているつもりであります。さらに一生懸命やりたいというふうに思っております。

○議 長 教育部長。

○教育部長 5番目の補助金の関係でございませぬが、公社につきましては、一応設置の経緯、この団体をつくったときは一応……（何事か叫ぶ者あり）はい、はい、ということで、そういったことでできた法人でございませぬので、管理をすることでできた法人でございませぬので、一応、行政職2人ということでベースアップ分も加味した中で考えておりますのが基本であります。ただ、今後ということにつきましては、当然、議員おっしゃるとおりでございませぬので、例えば固定額でいいのか、それでできるのかとか、そういった部分で公社のほうと協議を進めてまいる予定でおります。以上でございませぬ。

○議 長 14番・佐藤剛君。

○佐藤 剛君 ちょっと範囲が長いので5点になるのですけれども、お願いいたします。

207ページです。長寿命化計画策定業務委託料734万円があるのですけれども、これは学校施設の長寿命化、特に校舎なのでしょうけれども、学区再編やら統合やら、そしてまた空き校舎

やら、そういうところが出てくると思います。700万円ですから、きちんとした調査、大きなとか、計画策定しているの、一言では説明できないと思うのですが、ほんの概要でいいのですけれども、どのようなことの中身なのかという、長寿命化計画の概要をちょっと教えていただきたい。

次、209ページです。中段にALT賃金の関係ですけれども、これも先ほどちょっと話が出ました新学習指導要領絡みです。平成30年度と平成31年度、その移行期間ということで、この2年間6人体制の多分1人、ALTを昨年増やして、それに向けてやってみようということですが、来年から特に5年生以上、今度は倍に授業数、コマ数になります。3年生以上も強化されるということで、同じくその1年間やって6人体制で、来年度を乗り切れるのかというところの検討がなされているのか。そこら辺ちょっと気がかりなのでお願いしたいと思ます。

そして221ページ、これも新学習指導要領絡みですけれども、221ページあたりということで、情報化の、学校の情報化の教材ですけれどもね、電子黒板。それが前から整備率が悪いということで、教師のほうからの要望も出ていると思うのですが。これが予算の中で来年度に向けて整備していく予算組みになっているか、なっていないのかをちょっとお聞きしたいというふうに思います。

243ページ、郷土史の編さん事業です。今年のところは700万円くらいですが、昨年からの繰り越しが2,000万円くらい多分あるのですけれども。これは昨年度の筆耕料から、印刷製本からほとんど全てを繰り越しているということで、繰り越しですから今年度うちに何とかしなければならぬので、するのでしょうか。こういう状況からして、ちゃんとできるのか—できるのか—と言うと失礼な言い方ですけれども—そのめどを立ててやっているのかというところをお聞きしたい。

もう1点が255ページ。大和の学校給食センターの大規模改修ですけれども、説明もありまして、そして昨年度に予算化されて、いろいろ昨年、長寿命化計画により有利な財源を確保する見込みが立ち、まず詳細設計をしてからということで、昨年度予算を落として、そしてことし予算化したのですけれども。昨年度が多分2,200万円くらいで、有利な財源を確保されたので増やしたのかもしれませんが、その割に3,500万円というふうに大きく増えているわけなので、そこら辺のいきさつをちょっと教えていただきたい。

○議 長 教育長。

○教 育 長 2点目のALTの件についてだけ私がお答えし、あとは部課長が説明します。

ALT、あと2年が経過措置であります。ご指摘のようにALTの数については、去年1名増、来年度1名増、この予算で1名増の予定でありましたが、増えると何とかあの時数をうまくこなせるというのは計算しております。それで、本当はこういう動きに合わせてALTも含め、国費で文科省が予算をつけるべきなのですが、南魚沼市は今までの経過から引き続き単費、市費でALTをつけております。そのような動きから今年度、県から英語専科教員ということで、国、文科省、県の動きがこの小学校での英語科に合わせて、小学校へも英語の免許を持っ

た先生をということを言い出しております。去年、県との交渉を頑張らせていただいて、来年度から1名の県費の英語専科教員が配置されますので、うちが6名、この先生が1名、7名体制でこの2年を乗り切って、本番に向けて大丈夫だというふうな考えでおります。以上であります。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 1点目のご質問、長寿命化計画ということでございます。これにつきましては、実は国のほうの補助金を改修等でもらう場合には、今、この長寿命化計画を立てていることが最低条件だという流れになってきております。仮に長寿命化計画を立てていないと、要望しても順位はかなり下のほうになってしまっていて、なかなか回ってこないというような状況がございまして、現在どこの自治体でもこれの策定に向けて——既に済んでいるところは別ですけども、策定に向けてやっている。あるいは新年度で策定をしていくというような状況でございまして。

当然、全ての学校につきまして、もうかなり南魚沼市は古い学校が多ございますので、これを、ではどの程度の改修をすれば、どの程度年数が延びて活用ができるのかというあたりの基礎的なことをそこでやっていく。あるいは今までそういう資料がなかなかなかったものですから、これができることによりまして、例えば毎年何千万円かかかって20年もつよというような結果が出れば、それと新しくつくるものと対比して、ではどちらが有利であるかということも検討していく材料になるというようなものでございます。

失礼いたしました。3番目の電子黒板の整備につきましてですが、基本的に221ページの事業運営費教育振興費につきましては、各学校からの要望を積み上げた中で予算化するということでございます。この予算の中に電子黒板を希望していた学校があるかどうかについては、今ちょっと手元に資料がございませんので、後ほど回答させていただきます。

○議 長 教育部長。

○教育部長 4番目の郷土史の関係でございまして、大変発刊が遅れていてご迷惑をおかけしているところでございますが、現在あと予定されています4誌でございまして、やはり原稿の集約等の遅れ、あとは校正のやりとりを執筆者としているわけですけども、そういった遅れが目立っております。今回、繰り越しに全部4誌でさせていただいたのですが、今のところ2誌が印刷製本の契約までいっておりますので、できれば6月中くらいに2誌は発刊したいというふうに考えておりますし、あとの2誌につきましても、来年度末には必ず発刊する予定にしております。

そして、5番目の質問でございまして、給食センターでございます。当初、平成30年度予算のときには給水と給湯蒸気管の全面布設ということで考えておまして、途中でですね、外部の水道管の受水槽から屋内までの水道管の布設が必要になったということで、ちょっと増額を検討をしておったのですが、そこで長寿命化計画によることによって有利な財源を確保できるということがありましたので、そこで今回はきちんとした形で——今回というか平成30年度はきちんと設計をした形で、平成31年度予算に盛り込んだという形で考えております。以上

です。

○議 長 教育長。

○教育長 電子黒板について追加説明をさせていただきます。毎年ご質問いただいて、検討はしております。今、南魚沼市の教育用コンピューター関係で平成 27 年度から平成 31 年度まで、パソコン、タブレット——タブレットは 652 台と多いわけですが、5 億円強の投資をするわけです。そのとき、特にタブレットと電子黒板との関係は密でありまして、学校からの要望は出ております。ただ、先生の中には電子黒板の必要性に疑問を持つ先生もいますけれども、要望としては多い傾向でありますから、今後検討するなどというのは恥ずかしいことではありますが、引き続き検討してまいりたいと思います。新年度予算では申しわけないであります、電子黒板については購入の予算は入っておりません。以上です。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 郷土史のほうで若干補足ということでさせていただきますけれども。先ほど部長のほうから、残る 4 巻のうち 2 巻の印刷の契約が終わったということでもありますけれども、その残る 2 巻につきましても、今年度中に印刷の契約が終わるということになっておりまして、残る校正・編集作業を終えても来年度中には必ず発刊ができるというような状況でございます。以上です。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 先ほどの答弁の補足をさせてください。学校要望のほうの予算の中にも電子黒板は、平成 31 年度予算は入っていないということが確認できました。また、学校教育課のほうで電子黒板について、総合計画のほうにも要望はしているのですけれども、残念ながら平成 30 年度の実施計画には不採択になってしまったということでございます。

○議 長 14 番・佐藤剛君。

○佐藤 剛君 順々に一つ一つお願いしたいと思うのですけれども、長寿命化計画、わかりました。わかりましたし、一番最後の給食センターの改修についても、この計画に入っていることによって有利な補助ができるということで、状況は非常によくわかりましたので。

ただ、先ほどの答弁で言うと、補助金を受けるにはこれをどうしてもつくらなければならないというような——言葉は悪いのですけれども——仕方ないような形の答弁だったので、そうではなくて、こういうふうなことを立てれば、今後の先々のね、学区再編とか改修に役立つということで、有効な資料としてきちんと作成、もちろんですけれども、していただきたいというふうに思いますし、そのつもりだと思いますので、これは答弁はいいです。

次の A L T ですけども、これも状況はわかって、大変うれしいこと。きのうの日経新聞にもこの専科教員の話が出ていまして、その話を再質問でしようかと思ったら、県のほうからそういう配置があるということで、喜ばしいことなので、ぜひ。この教師の負担というのは——教員課程の中で英語の、小学校の先生は多分、今まではないのです。ですので、非常に負担になると思うので、こういうのを活用しながらやっていただきたいというふうに思います。

電子黒板の件だけ 1 点、再質問させていただきます。平成 30 年度予算の中には、各学校から

要望がなかったということですがけれども、これは前にもちょっとお話ししたことがあるのですがけれども、毎年、学校における教育の情報化の実態調査というのがありまして、前にも数字を出したのですがけれども、この電子黒板、当市は設置率4.4%なのです。学校の教員の方々、これは要らないやという方だったら、それはもちろん要らないのですがけれども。これは全国の学校の、全国の1,747市町村の中で、この4.4%というのは1,633番目なのですよね。それだけ多分、教育長がおっしゃるように、タブレットとの連動でこの電子黒板、これからプログラミング教育も含めて必要なのですよね。要望がなければ、それはそうなのでしょうけれども、そういう面で考えていただきたいと思いますので。ちょっとしつこいようですがけれども、十分な答弁いただいたのですが、もう一度その辺を含めてお答えいただきたいと思います。

○議 長 教育長。

○教育長 電子黒板については要望がないと言いながらも、全国の動きは私もわかっておりますし、そういうことはないと思うのですが、学校は教育委員会の顔を見ながら遠慮することもありますので。そういうことのない、本当に子供にとって電子黒板が必要ということで全国でそういう傾向がありますので、引き続き検討し前に進んでまいりたいというふうに思っています。

○議 長 15番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 6点ほどになります。211ページの学習指導センター、嘱託の指導主事を4名から5名に増ということでありましてけれども、この増を、1名を増やしてやるということの理由です。中身がちょっと聞きたいなと思います。

それから、227ページのスポーツエキスパートと部活指導のほうの派遣であります。中学の部活ですがけれども、何部にどのくらいの――土日だと思いますけれども、何部にこういった形で派遣をするのか。部活指導員4人と聞いていますけれども、市内4中学、部活のことがありますので、そこはどのような配置をするのかお聞きしたいなと。

それから237ページ、図書館のほうです。今年度から図書館長、センター長を兼ねてということで、図書館のほうの情報発信も含めてやろうとしているのでしょうかけれども、今の図書館の利用から考えると、あそこの中が、私もたびたび行きますけれども、やはりちょっと話声であったり、歩く音だったり、非常にうるさいというのもあるのですね。静かに読書をするというような雰囲気はちょっと欠けてきたかなと思っています。それから、1人当たりの貸出冊数もあまり伸びていないというふうに思うので、そこら辺の強化といいますか、改善というかというのをお考えなのかなということをお聞きします。

それから、243ページの国民文化祭に関してです。市独自のまつりをということでありましたし、それから南魚沼市の実行委員会を立ち上げるということでもありますけれども、市独自のまつりというと、芸能文化祭というのを毎年やっていますけれども、ああいったイメージでやられるのか、ちょっとその内容がわかっているのであれば。メンバー自体はどなたがお入りになっているのかなど。個人名は要りません。どういった立場で入っているのかと、ちょっとお聞きをしたいなと。

それから、247 ページの総合型スポーツクラブですけれども、今年度から2つの地域スポーツクラブが立ち上がるのですけれども、700 万円から 650 万円、50 万円減額なのです。これが減額になっているというので、2つ立ち上げて減額ということはどうなのかというところをお聞きしたいなど。

最後 249 ページの体育施設の指定管理ですけれども、この内訳です。ベースボールマガジン社とモンスターパイプと公社とありますけれども、内訳と。特にベースボールマガジン社とモンスターパイプについては、ほぼ人件費なのでしょうけれども、何人で幾らくらいということ考えているのか。そこら辺をちょっとお聞きします。

○議 長 教育長。

○教育長 6 点の質問のうち、1 点目の学習指導センターについて私のほうからお答えし、そのあとについては、部長、課長から答えさせていただきます。

学習指導センターは、去年もおととしも5名体制でやっておりました。それで昔というか、今年まで県費の割愛ということで、県の教頭先生をお借りして県費でお願いしていました。昔は3人おったのですけれども、やはり人件費が高いということと、市で育ったOBを有効に――教育長の私はその力の見える人を採用していくということによって、学習指導センターの充実と、ひいては予算面でも効率よく運営できるということです。

まず、お答えしますと、5名体制のうち、その割愛の1名が算数の県の職員でありましたので、その方がいなくなるということで、教員・校長OBの算数経験者の先生を1名補充するというのが内容でございます。以上です。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 2 点目のご質問です。部活動指導員でございますが、4名ということで、現在大和中学校のバレー部、それから八海中学校の卓球部にそれぞれ1名、塩沢中学校のアルペンスキーのほうに2名を予定しております。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 図書館の件でございます。私ども専任の館長ができるということで、その指導に沿って図書館運営ができるということで大変うれしく思っているところでございます。先ほどの音ということでございますけれども、うちの市の図書館はフルオープンの施設でございますので、どうしても音が通りやすいというのは確かだというふうに思っております。そこで今回、予算の中でも計上してございますけれども、展示スペースを間仕切りしまして、その部分で例えば談笑なりをしていただくことは、あまり気にならないような格好でそのスペースが有効に活用できないかということで、今回考えさせていただいてございます。

それから、図書の利用につきましてですけれども、確かに言われるとおり前年度比、ほぼ同じ100%でございますので、この辺の利用の促進というのは、やはり魚沼市との連携もございましたけれども、図書館で例えば図書の紹介等いろいろな活動をした中で、利用が増えるようなことで考えていきたいなというふうに思っております。

それから、国民文化祭の内容でございますが、今のところ私どもは3点の事業を考えてござ

いまして、1点は越後上布とそれから米の関係ですね。その辺を牧之記念館で展示する、実演するというような取り組みを1点考えております。

それから、坂戸城址の石垣が来年完成をするということで、ここに携わった日本で権威の先生がいらっしゃるわけですがけれども、その先生からシンポジウムをいただくということで、講演をいただくということで考えております。

もう1点が、これは例年やってございますけれども、NSGフェスタ、これを障がい者全国大会ということで、併催で国民文化祭で行われるわけでございますけれども、その一環としてNSGフェスタを開催するというように考えてございます。以上でございます……（何事か叫ぶ者あり）

実行委員会のメンバーですがけれども、実行委員会は既に立ち上がってございまして、市長が会長ということで、あとは観光協会であるとか、それから福祉課であるとか、私ども社会教育課は当然、事務局でございますけれども、そのようなメンバーの中で実行委員会を立ち上げてございます。以上です。

○議長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 ご質問5点目の総合型の予算についてでございます。去年は、スポーツ&ライフが立ち上げの実行委員会ということで、t o t oの補助金をいただいております。t o t o補助金が108万円ございまして、市の持ち出し予算が650万円——これは総額ですがけれども——公社のスポパラの補助金が638万円、スポーツ&ライフが120万円というのが平成30年度の予算でございました。

今年度予算の内訳ですがけれども、440万円がスポーツパラダイスの予算で、210万円がスポーツ&ライフの予算というふうな形になっております。今年度につきましては、実行委員会がスポーツ&ライフがとれるということでt o t oの予算が入っていない関係で、従前からの持ち出し分の金額であります650万円の金額の中で、2つの総合型のほうに割り振りをしたというふうなことでございます。

スポーツ&ライフにつきましては、今年度からまたしっかりした形、さらにパワーアップした形で事業が行われるということで、去年の120万円からは増額を行っております。スポパラにつきましては減額しているわけですがけれども、予算要望の中身を見させていただきまして、今まであまりこの部分にメスを入れなかったのですがけれども、この予算は削れるのではないのかなという部分を精査した形の中で査定して基づいた形の金額でございます。

6番目の指定管理者の金額の案分でございますけれども、委託料としまして、公社の委託分が2,082万8,000円、別枠で人件費分というのが次のページになりますけれども、4,320万1,000円ついておりますので、公社の計としまして6,402万9,000円が、今回の公社への人件費分委託分を合わせたものという形になっております。

ベースボールにつきましては、大原運動公園の管理費が1,900万円。それからクロカンハウス分が410万円、石打グラウンド分が38万円ということで、合計2,898万円というふうな内訳になっております。あと、モンスターパイプの経費が970万円、これは据え置きというふうな

形で入っております。メンバーにつきましては、大原運動公園につきましては、施設長の常勤が1名、副施設長常勤1名、スタッフ常勤2名、あとスタッフの臨時2名、これが常時あそこの施設にいるわけではありませんけれども、この6名のメンバーの中で、ぐるぐると回しながら行っていくというふうな形になります。

クロスカントリーハウスにつきましては、大会等によってメンバーは変わってはくるのですが、最低のときでも1人。あとはいろいろな利用——スキー大会の前で利用が多いときとかいろいろあるのですけれども、2人ないしは、また大会のときには複数名のスタッフで対応するというふうな形になろうかと思えます。以上です。

○議 長 15番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 指導主事の部分については了解しました。2020年に大改革があるということで、それに向けての増強かななどと思ったものですが、総人数からすると変わらないということであれば、了承しました。

中学校のエキスパートですが、バレー部、卓球部、アルペンスキーということでありますが、この選定です。結局そのいろいろな部活から欲しいと来ているわけですが、それがこういうふうな、人数4名ですから。こうなったというのはいたし方ないのですが、それぞれの市内の体育協会に所属している協会がございまして、その協会のほうからその講師が派遣ということになるのか。あるいは教師を退職なされた方で経験のある方がここに派遣になるのかというところを、ちょっと教えていただきたいなど。

図書館のほうについては、魅力アップということで取り組むということではわかりました。

国民文化祭のほうについても了解をしました。

それから、スポパラですが、例えばスポーツパラダイスであれば、こういう冊子が市報とともに配られていたわけです。年間費を納めていただければ、受講料、使用料について割引があるということでやっていらっしゃるのだけれども、440万円の減額となると相当金額が大きく減額になったわけですが、それでもやっていけるということであれば、それで構わないのだけれども。

スポーツ&ライフについても、同じ形式で年会費をもらって受講料ももらうという形でやるのかどうかというところが、トレセンのほうをのぞいても、そういうポスターらしきものがないのでちょっとわからなかったのですけれども。そういった形からすると、では2つの総合型スポーツクラブが共同して年会費ということで、それを案分をするということまで生涯スポーツ課のほうで指導するのかどうか、ちょっとお聞きをしたいなと思えます。

それから、最後の体育施設については、ベースボールマガジンとモンスターパイプについての人件費が幾らかという部分が、ちょっとそれが答弁なかったのですけれども、人数的にはわかりましたが、人件費で幾ら見ているのかと。そこをまた、再度お答えください。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 2点目の部活指導員の関係でございまして。基本的に元教師という方はいらっしゃいませんので、これまでも長年専門のスポーツにかかわってきた方4名となります。

なお、このほかにスポーツエキスパートとして8名を予定しておりますけれども、この方々につきましてはまだはっきり決まっておきませんので、こちらで今、どんな種目だとか、どこの学校というふうには申し上げることができません。

○議 長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 5点目の総合型のお互いの融和の関係ですけれども、これにつきましては、スポーツ&ライフのほうではまだ会員制というような形ではなくて、個々の教室がありまして、その教室の中で参加者を募集するというふうなスタイルになります。

スポパラにつきましては、会員制をとっているわけですがけれども、今回、ベースボールマガジン社のほうの管理に移行していくクロスカントリーハウス、こちらの条例の中ではスポパラ会員の方は割引制度がありますので、これは今度ベースボールになったので、割引できないのだよというふうなやり方はとりません。最終的にはその部分で融和していくような形でいかなくはないかなと思っておりますけれども、まだスポーツ&ライフも立ち上がっていく形の中で、会員制になっていくかという部分につきましても、また今後の課題かと思っておりますし、それが会員制になった場合には、1本の会員制のほうがいいのかという部分も含めて今後の検討材料だと思います。扇の要の中に生涯スポーツ課がありますので、両者の間に入って生涯スポーツのほうでどうしていこうやというふうなことで、また進めていくような形になるかと思っております。

指定管理の人件費部分でございますけれども、大原運動公園の人件費につきましては、1,800万円が総人件費という形でございます。欠之上クロスカントリーハウスにつきましては人件費が240万円、石打グラウンドにつきましては、ほぼ人件費なし。総額が38万円ということでございます。

先ほど答弁が漏れたのですけれども、トレーニングセンターが、これは指定管理の年次が1年ずれておるのでございますけれども、トレーニングセンターもベースボールマガジン社のほうに550万円の指定管理料が出ておきまして、それを合わせたものが先ほどの2,898万円というふうな形になっております。トレーニングセンターの中での人件費は700万円ということでございます。以上です……（何事か叫ぶ者あり）モンスターパイプにつきましては、人件費650万円でございます。以上です。

○議 長 13番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 4点伺います。209ページ、中学生海外派遣研修事業であります、950万円。オレゴン州という説明はいただいたのですが、聞くところによると今年でこのオレゴンを終了するという話のようですが、詳しく説明をいただければありがたい。相手の都合なのか、こちらで計画をどう練ったのか、その辺であります。

211ページ、教員住宅の利用率と申しますか、入居率があまり芳しくないというような話が聞こえるのですけれども、かなり皆、多分、老朽化していると思うのですが、そういったリニューアル等は随時されているのかどうかひとつお聞きします。

次、221ページになるのかなと思っておりますが、スキー授業のアルペンについて、バスの送迎とか

やられているようでありますけれども、1シーズン大体どの程度の授業日数なのか、回数なのか、ひとつお聞きしたい。そして、それに絡めて多分それぞれのスキー場へ行くわけだと思いますが、リフト使用料等はどのようなふうになっているのか。ちょっと見当たらないようで、知りたいなと思いました。

次に毎年聞くのですが、245ページの文化資料展示館室、これは指定管理料等で600万円という形になっていますが。この根拠がどうしても私は昔の電気料程度ということが頭に残ってしまうので、この600万円の根拠というのはどういうところからはじかれてこうなっているのか、ひとつもう一度お聞きしたいなというふうに思っています。以上です。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 1点目ですが、海外派遣のことです。平成31年度が最後のオレゴン州への派遣ということです。これにつきましては、これまで現地のほうで交流プログラムを一手に引き受けてきた方が教員を退職して現在講師となっておられます。エルマイラ高校の講師という形でやっていらっしゃる。その先生が担任をした子供たちが今年度で全て卒業してしまうということから、今までは自分が責任を持ってホームステイ先——教えてきた子供たちの家庭もみんなわかるわけですので、責任を持ってホームステイ先を斡旋できたのだけれども、今後についてはそれができないということで、先方からそういう申し入れがありました。私どももそれを機会に、新たな別の場所を考えましょうということになっております。

2点目の教員住宅の入居状況でございますけれども、33戸現在ございまして、19戸に入居をしているという状況であります。それからリニューアルに関してはですね、残念ながら壊れたところを修繕するというのが精いっぱい状況であります。

3点目のアルペンスキーの授業でございます。これにつきましては、今ちょっと手元に詳しい資料を持っておりませんので、後ほど答弁させていただきますけれども、基本的に使用料は各スキー場に必要なものをお支払いする。ただし、子供たちの中で共通シーズン券等を購入している者につきましては、それを活用しているという状況でございます。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 池田記念美術館の指定管理料の根拠ということでございますけれども、池田記念美術館につきましては、常設展それから企画展、いろいろ取り組んでやられておるわけですが、全体として1年間の予算が3,500万円ほどということになってございます。その中で全ての人件費を含め、事業費含めて入っているということでございますけれども、その収入が、まず事業収益は入場料収入を含めまして、1,200万円ほどになります。そのほか財団が持っている株式等の財産の運用益が470万円ほど。それからベースボールマガジン社からの事業寄附といいますか、そういうものがございまして、それが1,200万円ほどということになってございます。総額の3,500万円から今ほどの金額を引きまして、600万円ということで市の指定管理料ということになってございます。以上です。

○議 長 13番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 オレゴンの問題はわかりましたが、これでことしでやめるというわけではな

くて、別の場所という話でありましたが、非常に歴史のある、あるいはまた、いろいろ私も何回かこの報告会を聞いてみていまして、非常に皆さんが安心して安全でということが非常に定着しているなというふうに感じたのですが。これから考えられる問題に関しては、その段取りから言うと、かなり時間を要すると思うのですが、どういった方向をしているのか。ある程度見定めていてそれをやらなければ、なかなかできないものではないかなというふうに思いますが、案がありましたら聞いておきたいと思います。

あと、教員住宅であります。やはりここに入居される方というのは多分若い先生方が多いのではないかなというふうに思います。単身なり何なりで来る人が多いのではないかなと思うのですが、そういう人たちが、ああここでもいいかと思われるようなリニューアルと申しますか、今風に改装するとかという形にしていったらどうかなというふうに思います。特に木造住宅の場合は、手を加えることによっていくらかでも寿命が延ばせるという利点があるわけでありますので、そういう点をひとつ研究したらどうかなと思いますので、所見を伺っておきます。

あと、スキー授業については、基本的にこの学校教育の中できちんと覚え、そして卓越した方はクラブに入ったりいろいろしてやっているかと思うのですが。基本的な部分でこのスキーというのは、アルペンというのは、私は必要ではないかなというふうに思っているのですが、そういう点で、今後ますますそれを充実させていくような状況であるかどうか、ひとつお聞きしたいと思います。

あと、文化資料展示館については、さま変わりしてきたなど。これはベースボールマガジン社は当時——繰り返して申しわけないのですが、当時、博物館を持っていなかったわけですから、倉庫代、そういったきちんとした管理できる倉庫ですよね。当時 3,000 万円はかかるのだというような言い方をされて、それよりもこれに参加したほうがあれかなということで、多分、ただ同然で入居してもらったというような状況があったということを含んでいただければなと思います。それについては、答弁は要りません。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 1 点目の次期の中学生海外派遣ということでございますが、これはいろいろなところを今考えているというのが正直なところで、ここに決まったというふうにはまだ言えません。幸い友好都市もございますし、あるいは海外に出て活躍している市内の出身者などもありますので、そういった方々のお話を聞いたりしながら、総合的に判断をしていきたいというふうに思っております。

次に教員住宅につきましてです。リニューアルの方向性があるのかということですが、正直に申し上げますと、歳入で 14 番議員にもお答えしましたけれども、民間のアパート等がかなり市内にございまして、そちらのほうに流れている傾向というのもございますので、ここで新たに大きな改造をして教職員にそこに住んでいただくということをせずとも、ほかで先生方が住居を見つけるというのは十分に可能かなというふうな判断をしております。今後の状況を見ながらではありますけれども、将来的には教員住宅の取り壊しも考えていく必要があるのかなというふうに思っております。

それから、アルペンの授業に関しましてですけれども、先ほど答弁が漏れてしまいまして申しわけありません。現在、小中学校で特色のある学校づくりということで、このアルペン授業に関しても補助をしております。

それから、授業日数につきましては、どうしても各校でいろいろ、さまざまになっておまして、シーズン2回から多いところは10回くらい行くところもあるそうでございます。五、六年生のみ行ったりというようなことで、学年によっても取り組みの状況が違うということではあります。当然、市としては、アルペンスキーが盛んな土地柄でありますので、ここでぜひ基礎的なスキーの楽しさを覚えていただいて、将来のリピーターになって帰って来ていただくということを考えております。

○議 長 あと何人くらい質問があるか、挙手願います。

〔複数名挙手あり〕

お二方。

とりあえず休憩といたします。再開を11時10分といたします。

〔午前10時50分〕

○議 長 休憩を閉じ、10款教育費に対する質疑を続行いたします。

5番・中沢道夫君。

〔午前11時10分〕

○中沢道夫君 ちょっと細かいことですが、207ページ。これは前から続いてきている教育費一般経費の中で207ページの3行目ですね、イベント開催委託料。これは多分説明がなかったと思うのですが、今までなかった項目だと思うのですが、それと指定管理施設使用料というので93万2,000円上がっていますが、何か関係があるのかどうなのか。なくてもいいですが、もし内容がわかったら教えていただきたいと。

次の209ページですが、これも前のところから国際交流及び文化・スポーツ基金事業費というので、一番最後、中学生海外研修事業負担金というので30万円上がっていますが、去年の予算書を見ると日韓友好中学生交歓事業補助金ですかね、というような項目ですが、これは名前が変わっただけなのかどうなのか。もしその辺がわかればと思ひまして。

あと、もう1か所、217ページ。これは、小学校教育費運営費全般の話ですが、来年度は大巻の2校が1校になるわけで、1校学校が減るわけです。去年の中学校の予算書を見ますと、中学校は数が少なかったの、予算がかなり減っていたのです。ことしのをみると、わずか24万1,000円ということで、どこが違うのかなと思って私は見ましたら、臨時校務員賃金ということで、去年は1,793万円だったのが2,600万円ということで、ここで900万円くらい増えていて、学校が1校減ったけれども、ほとんど減らないということなのですが。先ほど同僚議員の答弁では、正職員のいない学校に15人ということなのですが、これだけ増えていると、要するに今まで正職員だったのを臨時に置きかえたということがあるのかどうなのか、その辺ちょっと聞かせてもらいたいと思う。

○議 長 教育部長。

○**教育部長** 1 番目の 206、207 ページのイベント開催委託料と指定管理施設使用料につきましては、この 8 月に太田市と——群馬県の太田市です。太田市と南魚沼市で交流演奏会を計画しております。それにつきまして、ポスター、パンフレット、チラシなどを作成する委託料を含めまして、総合司会等を行っていただくための経費としましての委託料の計上でございます。指定管理施設使用料は、3 日間大ホール等を全部使用する予定になっておりますので、それに伴う指定管理施設使用料になります。

2 番目の 30 万円の関係でございますが、通常いつも補正でお願いしておりました、ひの教育センターが行っておりますカナダ・ビクトリアの派遣事業でございますが、それが今までは開催されるかされないかわからない部分が多かったこともありまして、補正でやっておりましたが、ここのところ安定して研修を開催していただいておりますので、それに伴う研修負担金 3 名分の 30 万円という計上でございます。

3 番目につきましては、学校教育課長が答弁いたします。

○**議 長** 学校教育課長。

○**学校教育課長** 3 点目の臨時校務員のことでございます。これにつきましては、昨年度まで 10 名程度でありましたものを今年度 15 名と見込んでおります。その見込んだ内容でございますが、現業の退職者が出まして、その中で 6 人校務員からの退職及び職種変更というような形で考えておりました。学校の統合によりまして 1 校分減りますので、その分で 5 人増えるというような内容でございます。

○**議 長** 5 番・中沢道夫君。

○**中沢道夫君** 1 点目はわかりました。

2 点目は、去年、予算に上がっていた日韓友好というのは、なくなったということなのでですね。その辺ちょっと答弁がなかった。

○**議 長** 学校教育課長。

○**学校教育課長** 昨年まで補助金として出しておりました日韓友好交流ですけれども、これは、韓国のテグアルリョン中学校——大関嶺中学校との交流でございます。これにつきましては、今まで塩沢中学校が母体となって交流をしていて、そこに市が補助を出していたという内容でございます。今年度からは市のほうが直接交流事業を行うということで、中学校への補助金がなくなったというふうにお考えください。

なお、ビクトリアへの派遣 30 万円につきましては、今までひの社会教育センターのほうからご招待という形で 3 人分の枠を南魚沼市にいただいていたのですけれども、これまではずっと補正予算で対応させていただきましたが、もうずっと慣例化をして今後も見通せるということから、平成 31 年度予算から当初に入れさせていただいたものでございます。

○**議 長** 7 番・勝又貞夫君。

○**勝又貞夫君** 平成最後の一般会計の質問となります。実はどこで聞けばいいのかと思っていたのですけれども、ついつい 10 款まで来てしまったので、この場で聞くことにします。

例えば、205 ページの教育費の冒頭の部分。205 ページの左側の節の部分ですが、2 段目、3

段目に共済費、賃金とあります。賃金というのは臨時職員の賃金。4番の共済費というのは臨時雇いの人たちの社会保険料というふうに理解しているのですけれども、明細のほうに上から3段目、4段目あたりでしょうか、4、5段目のあたりに共済費と臨時職員賃金と、これはセットになっていますけれども、207ページ、教育改革推進事業費、上から10段ほどの丸ですね。ここに臨時職員賃金とありますけれども、ここには共済費が載っていない。次の丸の特別支援教育事業費で、ここには臨時職員賃金とセットで共済費が載っている。と見てわかるとおりですけれども。例えば211ページの下のほうです。学習指導センター運営費ですか、臨時職員賃金と共済費はセットになっていると。ところが、215ページ中ほどの丸のところには臨時職員賃金に共済費がセットになっていないと。これは何らかのルールがあると思うのですけれども、ほかの2款とか6款、7款にもこういうところが見受けられるのですけれども、共済費とセットになっている、いないのルールのようなものがあつたら教えていただけないでしょうか。わかっている人はわかっているのかもしれませんが、わからない人もいるわけですから、情報共有という意味でご説明願いたいと思います。

それから、先ほどの13番議員の質問ですが、209ページです。上から5段目、中学生の海外派遣についてですけれども、オレゴン州のユージーン市、これは長いおつき合いのようであります。毎年20人派遣されているということは私も知っています。平成25年からの予算を見ると、平成25年から平成29年までは804万円、それに対して決算額は750～760万円程度と。平成28年と平成29年には逆に決算額が減っているという事実があるのですけれども、平成30年度の予算は880万円と増額になりました。さらに今年950万円と増額になっているのですけれども、派遣人数が増えたのかと思ったのですけれども、同じく20人だと。同じ行程で同じプロセスであれば、どうしてこれほど増額が続くのか、その辺の説明をお願いしたいと思います。

あとは、もう1つ。どこで聞けばいいかわからないので、ここで聞くことにします。269ページの中ほどに教育費があります。教育費のこれは給与に関する総額が5億9,000万円。これについてはわかるのですが、合計金額がずっとその下のほうですね、45億9,300万円という数字であります。予算の概要説明の資料の6ページの一番下のグラフ。この円グラフの人件費のところには48億四千何百万円とありますけれども、この予算書の一覧表に45億9,000万円とあるのに、概要版の6ページの一般会計の人件費について48億円という数字は、何か別の計算根拠があつてこういう数字が出てくるのだと思いますけれども、それこそ情報共有するために教えていただきたいと思います。

それからついでなのですけれども、一番下の円グラフと真ん中の円グラフの公債費の金額が2,000万円ほど違います。なぜこれが違うのか。これについても何らかの根拠があるのだと思うので、お尋ねします。以上、3つの質問ですが。

○議長 学校教育課長。

○学校教育課長 まず1番目の質問でございます。205ページをごらんいただきますと、確かに共済費と賃金が並んでございます。そして207ページを見ていただきますと、これにつきましては臨時職員賃金のみということで疑問に思われると、ごもっともかと思っておりますけれども、

基本的に臨時職員の賃金につきましては、各課のほうで予算措置をいたしますが、共済費につきましては、人事のほうで一括して計上している部分がございます。ですので、通常の臨時さんであれば、総務課のほうの経費で見ているというふうにお考えいただきたいと思います。

では、なぜ共済費が出てくるところがあるかと申しますと、これは国の補助を受けていたり、あるいはほかの市町村と一緒に事業をやっているなどしまして、分けておかないと後々の集計等で面倒をする場合がございます。そういったときに関しましては、各課のほうで共済費も持つというようなやり方をやっております。例えば 205 ページの共済費につきましては、これは先ほど申しましたスクールソーシャルワーカー等の共済費になるわけですがけれども、これにつきましては、国の補助を受けている関係でここに数値が上がってきているというふうにお考えください。

○議 長 教育部長。

○教育部長 2 番目の質問でございますが、中学生海外派遣事業委託料でございます。これにつきましては、昨年 10 月の時点で予算編成をするときでございますが、燃料付加賃金——サーチャージでございます——それが大分値上がりしております、昨年の、その一昨年になりますけれども、その同時期よりも往復で 1 万 4,000 円ほど値上がりしております。それで運賃分で値上がりしている分と、現地のホテル代金等がまた値上がりしております、海外派遣の経費が増加したことです。

先ほども話がございました韓国の派遣事業ですが、今回、塩中 1 校だけではなくて、市内全中学校に派遣をするということで、その委託料としてここに盛りましたので、その分が増加になっております。以上でございます。

○議 長 財政課長。

○財政課長 予算の資料のほうの円グラフの人件費の関係と予算書の中にある人件費の違いについての関係ですがけれども、この円グラフ全体として、円グラフのほうに載せている数字の作り方が私どもで言う決算統計というような統計手法を——ほかの全市町村もそうですけれども——とっておりますので、マニアックと言いますか、ちょっとこの予算書そのものの分類とは違う分類をしているケースがままございます。なので、どの数字をとってみても全て合わなくなってしまうのですが、まずこの人件費についてですが、先に言っていた 269 ページのほうの表については職員人件費でございますが、後ろの円グラフのほうに載っている人件費につきましては、多くの非常勤特別職の報酬などが多く含まれております。その関係で大きく違いが出てきております。

もう 1 点、上の目的別の公債費と性質別の公債費の数字が違っている件、これはそれぞれ決算統計の手法による場所ですけれども、公債費の中で 7 款に盛っております地方産業育成資金の関係で、その金額を含むか含まないかという分けがありまして、ここが違ってきているという、非常に統計的などいいますか、技術的なところの違いでございます。以上です。

○議 長 7 番・勝又貞夫君。

○勝又貞夫君 そうですね、ユージーン市の派遣事業についてはわかりました。一番最初の

質問の賃金と共済費についてですけれども、おおむねそういう事情があると。ルールのようなものがあるというふうには解釈しました。しましたが、平成30年度の予算書を見ると、同じ場所にですよ、明細のところにもほぼ同じ項目が並んでいるにもかかわらず、款・項・目・節のところに共済費が載っていないのです。全く載っていない。平成29年の予算書を見ると、また同じところに共済費が載っていると。平成28年のところにはまた載っていないと。その年、その年によって、なぜこれほど一貫性がないのかと。素朴に思ってしまうのですが、平成29年度については決算書を見ると、節の欄に共済費は載っているけれども、明細の欄に共済費に当たる部分の記述がないと。にもかかわらず、なぜか合計が合うという、そういう書きたてですけれども、この辺についてある程度統一性を持たせたほうがいいのではないかなと、そんなふうにあります。この点についてどのようにお考えでしょうか。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 今回の205ページのところのお話だけ、ちょっと私のほうで申し上げます。昨年度、平成30年度の予算書には、ここで共済費は確かになかったかと思いますが。これにつきましては、年度途中で国の補助対象になるということが判明しましたので、平成30年度の予算書には載ってなくて、平成31年度の予算から載せたということになります。その前の年度につきましては、私は、今、正確なことは申し上げられませんが、何らかのそういった事情があってその年は載ったり、その次の年は載らなかったりということがあつたかと思つています。

○議 長 総務課長。

○総務課長 平成29年決算の件でございますが、右の明細のところに共済費が載っていないということだったので、共済費、10款からの支払いがなかったということです。どういうことかと言いますと、2款で見ている臨時職員の共済費は、補助等とは関係がございませんでしたので、2款のほうの総務費のほうの共済費で支払っているということです。

○議 長 終わりましたか。

18番・黒滝松男君。

○黒滝松男君 先ほど、手を挙げないで済みませんでした。1点といいますか、2点になりますか、聞きたいと思つていますけれども、八海中学校が開校して1年が過ぎてまいりました。そんな中で正面玄関が生徒の玄関が、焼野線のほうから宇田沢川のほうに移つたわけですが、今あそこに当然バスがとまっておりますし、あそこの道路が市道だと思いますけれども、非常に狭いのですね。狭いこととあわせて、正面玄関のほうに歩道ではなくて宇田沢川のほうに歩道があると。ちょっと正面玄関が移つた関係でそういうふうになっているのですけれども、あそこは地元からの要望でもう上がつていると思つていますが、市道の改良、拡幅、それから歩道のつけかえ等々上がつていると思つているのですけれども、その辺について、当然この予算書には上がつていないわけですが、これは建設部のほうの関係も出てくるかと思つていますけれども、その辺の考え方をお聞きするとともに。

今、玄関が変わつた関係で、藤原とか法音寺だとか、あちら方面の子供たちは、1回焼野線に出てきてちょっと上つて、それから市道のほうに回つて正面玄関に入るような形になつてい

るわけですが、この通路のことも要望として上がっているかと思うのですけれども。冬場はちょっとだめかもしれませんが、夏場については、前の玄関のほうから入って宇田沢川のほうの正面玄関に出る道が——道というか、校内にあるわけですので、そこを通らせるというようなことをしないと、ぐるっと回らなくてはならないと。非常に不自由な通学路になっているわけですので、その辺のことについて市道関係のつけかえと、それから今の通学路と言ってもほんの一部なわけですが、その辺の考え方についてお伺いをいたします。

○議 長 教育部長。

○教育部長 それでは、1点目の質問でございますが、危険な状況は十分把握しております。そして地元の皆さんとも現地の立ち合いをいたしまして、春から要望をいたしております。確かにその市道でございまして、なかなか整備計画が進まない部分でございますが、春から順次要望をいたしております、なるべく優先順位を上げてもらいたい。子供たちの安全・安心のために、なるべく優先順位を上げてもらいたいという形で建設部とも協議をしております。ただ、その点で根強く私どものほうも要望して協議をしていきたいと考えております。

2点目につきましては、学校教育課長のほうから回答いたします。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 2点目のずっと迂回しないと正面玄関のほうから入れないということでございます。

学校としましては、どうしても安全性を重視して通学路を定めるということになっておりまして、現況、それで1年やってみたわけでございますが、今お話がございましたので、再度中学校のほうと協議して、改善できるものかどうかやってみたいというふうに思います。

○議 長 18番・黒滝松男君。

○黒滝松男君 先ほど話したように、これは市道のことでございますので、建設部のほうに聞くのもちょっとおかしな言い方かもしれませんが、建設部として、この市道拡幅、歩道のつけかえについて、どのようなスケジュールといたしますか、考え方を持っているかお聞きしたいと思います。

○議 長 建設部長。

○建設部長 確かに地元のほうからも、PTA関係者からも要望をいただいております。現状として、河川側ですけれども歩道が現実にあるということで、事業の採択自体なかなか難しい部分がありまして。歩道がなければ、では歩道整備ということで事業を進められるのですが、そういった部分の調整で若干難しい部分があります。ただ、生徒の安全・安心という部分もありますので、引き続き検討はしてまいりますけれども、事業の時期についてはなかなか明言できない部分がありますので、ご理解いただきたいと思います。以上です。

○議 長 18番・黒滝松男君。

○黒滝松男君 ぜひお願いしたいのですが、あそこの歩道については、それこそ前の歩道といますかね、本当に狭い歩道で、歩道除雪もやっとなような状況で、ご案内だと思っておりますけれども。そういった状況下でございますので、事故があつてからでは大変ですから、い

ろいろな情勢がわからないわけではないのですが、子供たちの安全・安心のために一刻でも早く、また教育部のほうと相談しながら進めていっていただきたいと思います。以上です。回答はいいです。

○議 長 質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、10 款教育費に対する質疑を終わります。

○議 長 11 款災害復旧費の説明を求めます。

産業振興部長。

○産業振興部長 それでは、11 款災害復旧費について説明いたします。予算書 254 ページ、255 ページをごらんください。中段、1 項 1 目農林水産施設災害復旧費の丸、農林施設災害復旧費は、前年度同額の 165 万円となっております。2 行目、修繕料 100 万円は、災害時の農業用施設や林道等の応急復旧のためのものであります。3 行目の応急復旧委託料 20 万円は、災害時の応急復旧委託費で、行政区などで応急復旧する場合を想定しております。4 行目、機械器具借上料 20 万円は、融雪期の土砂撤去や農業用施設や林道等の応急復旧のための重機借り上げの費用であります。

続きまして最下段の表は、2 項 1 目公共土木施設災害復旧費は、前年度と同額の 154 万円。市道や準用河川などの災害復旧に要する経費で、小規模災害の応急復旧分の計上になります。小規模災害の復旧費で説明につきましては、1 目とほぼ同様の内容となっております。

以上で、11 款災害復旧費の説明を終わります。

○議 長 災害復旧費に対する質疑を行います。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、11 款災害復旧費に対する質疑を終わります。

○議 長 12 款公債費、13 款諸支出金及び 14 款予備費の一括説明を求めます。

総務部長。

○総務部長 続きまして説明させていただきます。256、257 ページをお願いいたします。最初の表、12 款公債費では、1 項 1 目元金の長期債元金償還金は、平成 31 年 5 月借り入れ分までの償還元金と、平成 31 年度の借換分の償還元金を利率見直しによる調整額など、43 億 607 万円、前年度比 556 万円の減となっております。

2 段目、2 目利子の長期債利子も、平成 31 年 5 月借り入れ分までの償還利子と、平成 31 年度借り入れ予定額からの推定利子、利率見直しによる調整分で、2 億 4,711 万円、前年度比 5,291 万円の減となっております。元利合計で 45 億 5,519 万円、5,847 万円の減でございます。

2 番目の表、13 款諸支出金、1 項 1 目普通財産取得費は、平成 31 年度当初での取得予定はございませんので、目出しとして 10 万円の計上。

3 番目の表、14 款予備費は、前年度同様 6,000 万円の計上でございます。

以上で、一般会計歳出の説明を終わります。

○議 長 12 款、13 款及び 14 款に対する質疑を行います。

15 番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 公債費の元金 43 億円についてお伺いしますけれども、このうちの交付金で手当てをされているのは今年度幾らくらいなのか。そこを教えてください。

○議 長 財政課長。

○財政課長 正確な数字は持ち合わせてございません。申しわけありませんが、概算として、63%、64%くらいを私ども認識しております。以上です。

○議 長 質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、12 款公債費、13 款諸支出金及び 14 款予備費に対する質疑を終わります。

○議 長 以上で、第 7 号議案 平成 31 年度南魚沼市一般会計予算に対する質疑を終わります。

○議 長 昼食のため休憩といたします。再開を 1 時 10 分といたします。

〔午前 11 時 41 分〕

○議 長 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

〔午後 1 時 10 分〕

○議 長 第 7 号議案 平成 31 年度南魚沼市一般会計予算に対する討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

13 番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 第 7 号議案 平成 31 年度南魚沼市一般会計予算、反対の立場で討論に参加いたします。

2019 年度政府当初予算案は 3.8%増の 101 兆 4,571 億円で、100 兆円を超えるのは初めてであります。10 月に強行を狙う消費税増税 10%対策など、多額な景気対策が盛り込まれています。参議院選挙を念頭に置いたものであります。キャッシュレス決済のポイント還元、プレミアム付商品券の発行、住宅購入時の給付金など、増税による税収分を超えると言われております。初年度は大盤振る舞いをし、後でしっかりいただく魂胆であります。また、菅官房長官は、消費税増税の実施判断は予算成立直後がめどと表明しています。予算案の前提が崩れることにもなりかねません。低所得者ほど負担が重くなり、格差を拡大する消費税増税はやめるべきです。昨年の森友・加計疑惑問題は目に余るものがありました。今年は厚労省の毎月勤労統計調査で不正・偽装が発覚しました。政府の不正で閣議決定した予算案を修正するのは前代未聞のことです。

市長は、所信表明で地方交付税については改革努力などに応じた配分強化に期待しつつ、財政健全化指標の改善を課題としています。市内の実態は一向に景気回復は見られず、市民の暮らしはさらに厳しく、まさに暮らし応援の予算が組まれたかであります。平成 31 年度一般会計

予算は、前年度プラス 5 億 300 万円、1.7%増の 304 億 2,300 万円です。財政調整基金、合併振興基金から 8 億 1,000 万円を繰り入れ、ふるさと納税 2 億 5,000 万円を見込んでの編成であります。年度末起債残高見込みは、一般会計で 381 億円。全会計では 794 億円で、若干の改善が見られますが、大きな荷物となっています。

そうした中で魚沼産コシヒカリが特A復帰は喜ばしいニュースでありました。日本一おいしい南魚沼産コシヒカリ特Aの持続を堅持したいものであります。住宅リフォーム事業 5,044 万円の継続は喜ばれていますが、申請期間は 4 月 15 日から 4 月 26 日の 12 日間であります。また申請がオーバーした場合は抽選と、厳しくなりました。改善を望むところであります。雪資源活用事業 2,244 万円は、東京オリンピック・パラリンピックで雪資源活用による環境にやさしいエネルギーと南魚沼の魅力発信を目標としたPRプロジェクトであります。3年間の継続事業でした。しかし、さらに継続の姿勢のようであります。どんどん膨らむPR予算とならないか心配であります。

移住・定住促進事業 5,143 万円の南魚沼版C C R Cは、今年から移住支度金の支給が開始されます。至れり尽くせりの支援が継続的に支援できるか心配であります。支援が必要な市民がたくさんいるのではないのでしょうか。MMDOは、ゼネラルマネージャーが不在で、市の担当と打ち合わせをしっかりとやりながら運営すると言われるが、法人としての体制ができていません。委託事業をこなせる体制とは思われません。始めたらやめられない、補助事業の最悪のパターンではないのでしょうか。無駄遣いと言われても仕方ありません。

新ごみ処理施設の建設候補地を国際大学用地内として2巡目の説明が終わりましたが、周辺集落との合意形成は進んでいません。土地取得の経緯からしても、かなりの制限があると考えます。ごみの減量化、資源化、処理方法など、ごみ政策を根本から練り直さなければならない事態になっているようにも感じられます。林業の振興でペレットストーブ補助金に薪ストーブも対象とされました。しかし、従来のを脱していません。木質ペレットの製造が中止され、森林組合が製材から撤退しています。バイオマスタウン構想を練り直し、里山再生で循環型社会の構築へ踏み出すべきであります。

水道料金値下げは永遠の課題でしょうか。せめて県平均の 150 円を目指すべきです。起債残高 92 億円がネックであります。下水道会計も、起債残高 273 億円は大変なお荷物であります。公営企業会計に移行ですが、使用料金値上げでの市民負担は無理であります。一般会計の大きな荷物となることでしょうか。八海山麓スキー場のリフトが修理できない状態であります。健全な施設整備で指定管理を委託するべきであります。更新に向けての協議が望まれます。

前回の消費税 8 %増税で冷え込んだ2014年秋から地方創生政策が打ち出されました。しかし、東京への人口集中はとまっています。今言われていることは、今度は自治体戦略 2040 構想であります。AIやロボテクスという新たな情報技術によって公務員を半減するとして、利便性向上の幻想を与えながら公共サービスの産業化を政策としています。情報関連企業に公共業務、財源、公共施設を開放する内実を持っているようであります。

国の悪政の防波堤としての地方自治体の役割が注目されています。今、市政に望まれている

ことは、生活の安全・安心とさらなる暮らし応援が急務であります。以上、指摘しまして、2019年度一般会計予算の反対討論とします。

○議 長 次に原案に賛成者の発言を許します。

10番・塩川裕紀君。

○塩川裕紀君 南魚みらいクラブを代表いたしまして、第7号議案 平成31年度南魚沼市一般会計予算について賛成の立場で討論に参加いたします。

若者が帰ってこられる、住み続けられる南魚沼の実現に向け、昨年度より5億300万円増の304億2,300万円という予算であります。市政に求められる要望、課題は山積している上、財政健全化も継続して取り組まなければならない厳しい状況であります。総合計画に基づく計画的な財政運営を堅持しながら全体のバランスに配慮して、ソフト事業では、妊婦健診や乳幼児健診及び療育支援の充実など切れ目のない子育て支援に引き続き取り組み、雪資源活用事業では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催都市であるさいたま市や組織委員会との連携により、テストイベントを通じて冷熱源としての魅力と雪室製品等の紹介による産業の活性化を図るという攻めの行政の姿勢が見てとれます。

ハード事業では、JR浦佐駅内にインバウンド対応ができる観光案内所を新設し、新たな観光拠点として魚沼市と共同運営していくということで、地域の要望にも積極的に取り組んでおります。

そんな中、立ち上げから過去2年間、期待されながら紆余曲折があった一般社団法人南魚沼市まちづくり推進機構は、なかなか成果があらわれず非常に厳しい批判を受けております。寄せられる声の中には、体制が不十分ではないか、本当に必要があるのかなど疑問の声があります。現在までの経過からやむを得ないところだと思います。しかしながら、この南魚沼市まちづくり推進機構は、市で取り組むことが難しい事業を民間手法を取り入れて実施し、さらに市内各種団体間の調整役を担うことで、連携がとれた効率的な課題解決につなげることを目指しています。過去2年の活動の経験から、知見豊かなアドバイザーの活用、組織的な実行を目指す事務所組織、市役所との連携強化という新体制に移行し、南魚沼市まちづくり推進機構がかけ橋となって産・官の連携による地域再生に全力で取り組み、ぜひよい結果に結びつけていただきたいという願いを込めまして、賛成の討論とさせていただきます。皆様のご賛同をお願いいたします。

○議 長 次に原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

次に原案に賛成者の発言を許します。

16番・中沢一博君。

○中沢一博君 未来創政会を代表いたしまして、第7号議案 平成31年度南魚沼市一般会計予算について、原案に賛成の立場で討論に参加させていただきます。

平成31年度一般会計当初予算は、財政健全化に向けた中で304億2,300万円の前年度比5億300万円、1.7%増の予算となりました。この10月1日に迫る消費税率の引き上げによる需要変

動に対しての機動的な対応を図るとともに、社会保障改革を軸とする基盤強化に向けた歳出改革の取り組みをする中で、この前年度の水準を下回らないように確保すべく、苦渋の判断の予算編成であったと私は感じております。そうした中、市長もおっしゃっていましたが、実質公債費比率等の財政指数は、県内、全国、各市町村の中でも非常に高い位置にあります。当市においても、高齢化社会が進むと同時にこの人口減少問題も大きな課題であり、そうした中で市民の負託に応えていくためにはこの限られた財源を有効に活用し、そして徹底した経費の削減に取り組むと同時に集中と選択の重さを感じる次第であります。

そういう中で、ではどう生活現場を守るか。財源を生かしていくか。みずから行動を起こして財源を生む。まさに体制づくりの強化が求められている次第であります。そうした中、どうしても不透明な部分もあります。この新しい事業に取り組むにはすぐに結果が出ないことも重々承知しております。しかし、この移住・定住に向けた促進事業は依然として暗礁に乗り上げております。この委託先のMMDOしかり、また南魚沼版C C R Cしかりであります。依然として結果が出ておりません。ましてや委託先の責任者の不祥事しかりであります。もう憤りを隠せないのが本音であります。

私たち党派は未来創政会として、もし来年度も同じような計画ならば、私は修正動議を出してまでも方向転換を強く求めるつもりでありました。しかし、今回の執行部のこの予算審議の計画内容をお聞きした中で、この受け皿の心配さもありますが、発注先も明確にし、また精査した中で進めていくという答弁でありました。大きく転換したというふうに私は思っております。今までハード面というのがどちらかという表に出て、私たちに伝わる部分が多かったのでありますけれども、このソフト面に重きを置き、そしてP D C Aサイクルをしっかりとやる。そして若者が帰ってこられるこの住みやすい政策へと、さらに移住促進事業を転換したことに、私はこの1年必ず結果が出ると期待し、そして雇用の創出へと市長のリーダーシップに私は期待したいと思っております。

そういう中で今年度の予算を見たときに、税は公正であるべきと長年訴えてきた都市計画税の廃止は、少しでもこの財源を必要とする中ではありますけれども、私は大いに評価したいと思っております。今までの都市計画の案件は継続して進めていきたいとの執行部の力強い言葉を誇らしく感じました。また、道路の橋りょう修繕、道路改築、消融雪施設整備など、18億7,200万円の予算を計上しております。そのうち10億9,669万円を国費としての要望もしております。国道17号、六日町バイパスにつきましては、余川地内から国道253号までの市道の切り回し工事が実施される予定であります。また、浦佐バイパスに関しましても、平成26年度開通した区間から引き続き三用川の橋りょう工事やトンネル工事が実施される予定であります。早期供用開始に向けて邁進して、ぜひ頑張ってくださいと思っております。

水道事業に関しましては、企業部を廃止し、上水道部を設置した中で効率的、効果的な事業運営を目指してまいります。そして経営戦略を見直す中で多くの自治体でこの人口減少が進む中、また消費税が上がることにより水道料金の値上げをせざるを得ない。そうした中で、少しかもしれないけれども、減免措置をし、また据え置きをして乗り切っていただいていることに、

私は大いに評価したいと思っております。市民生活部でも、新ごみ処理施設の早期供用開始を目指し、体制の強化を図るために廃棄物対策課から新しい処理準備係を分離し、新ごみ処理施設準備室を設置します。

また、健康寿命がささやかれる中で市民の命と健康を守るために、市民一人一人が主役との思いに健康という施策もいっぱい継続しております。このデータヘルスを活用したさらなる意識向上を求めべく自分の健康は自分でつくるとの、その健康マイレージ事業のようなそういう推進も今年度は実施に向けて検討中であります。私は、医療、介護費の抑制という観点からも大いに健康意識の啓発に向けて期待したいと思っております。

住宅リフォーム事業も制度を見直し、新たな事業として再スタートしました。子育て支援関係につきましては、今年 10 月から幼児教育の無償化に向けて準備を進めております。子供たちの未来に対して、国全体で責任を持って施策として大きな意味を私は持つものであると思っております。また、県下に先駆けて不妊治療や不育治療の助成継続等もやっております。妊婦期から子育て期に至るまで切れ目のない支援に、さらに邁進していただきたいと思っております。

また、介護の関係におきましても、当市では 150 人の介護職員が不足しております。そうした中でそういうことも事実、そういうことが明確になってまいりました。地域包括ケアシステムを進めるためにも、その 1 つとして緊急対策として介護職員初任者研修受講料を全額補助するなどして、市独自の何とかしなければいけないという支援の事業に乗り出していることに私は評価したいと思っております。

また、平成 30 年度からは、元気な高齢者に介護ボランティア制度も始めました。多くの方々がさらに社会参加へと期待しております。10 月に予定されている消費税率引き上げ対策に、またプレミアム付商品券の発行を行います。また、新たな店舗、サービス施設に向けてバリアフリー化補助金制度を設けて、障がい者、高齢者が利用しやすい商業施設の推進を図ってまいります。地域における消費を喚起し、市内の経済の下支えに期待したいと思っております。

最後に、林市長を初め職員の皆様の市民を守りたいという強い意気込みに期待し、平成 31 年度一般会計予算に賛成するものであります。以上でございます。

○議 長 次に原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

次に原案に賛成者の発言を許します。

7 番・勝又貞夫君。

○勝又貞夫君 ご指名いただきましたので、討論に参加させていただきます。

第 7 号議案 平成 31 年度の南魚沼市一般会計の予算総額 304 億 2,300 万円の原案に対し、歩む会を代表し賛成の立場で討論に参加いたします。

主な事業につきましては、さまざまな問題がありますが、既にほかの議員が多くを語ってくれましたので、改めて私が重複して語る必要はないものと思います。この新年度の予算案は、財政の厳しい中で限られた財源によるやむを得ない緊縮予算であります。より少ない費用でより大きな成果を上げることは、行政における基本中の基本であることは言うまでもありません。

執行に当たっては税金の無駄遣いと言われることのないように、くれぐれも慎重に願います。

さて、我が市の林市長は、寝ていても夢の中でも仕事をしているという噂さえあります。夢にうなされ、また、ときには本当に眠れない日々もあったことでありましょう。限られた財源をどのように配分すればいいか。これでいいのかと繰り返し自問をしながら、痩せる思いで市長裁定の最後のメスを入れたであろうことは十分に想像できます。実際に市長が痩せたかどうかは知りませんが、この作業もまた孤独で静かなる戦いであったことと思います。

さて、予算については、年度の途中においても状況が変われば、必要に応じて増額や減額の補正予算もあり得るわけで、そのときどきの状況において柔軟に対応していただきたいと思えます。また、ふるさと納税については、市長の強い思い入れのあった事業でもあり、また市民の関心や期待も大きいものがあります。関係者の努力により当初の予想をはるかに超えた成果が得られています。不安定財源であることは言うまでもありませんが、市民サービスに直接生かすことのできる財源であります。これについてはさらに倍増を目指して、創意工夫を重ねていただきたいものであります。

この予算案は南魚沼市の実情や方向性、さらに事業ごとの優先度に配慮したものであります。個々に見れば必要にして十分な予算であるとは言えないものであります。そんなわけで、隅から隅まで賛成ということではありません。賛成か反対かと問われれば、多少うなずけない部分もありますが、当市の大変厳しい財政状況を考えれば、現行法制の中で可能な限りの検討が加えられたものと判断し、賛成するものであります。以上、歩む会を代表して賛成討論いたします。多くの皆様の賛同をお願いします。

○議 長 次に原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

次に原案に賛成者の発言を許します。

15 番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 議長より発言を許されましたので、第 7 号議案 平成 31 年度南魚沼市一般会計予算に対して、賛成の立場で市民クラブを代表して討論に参加するものであります。

歳入歳出総額 304 億 2,300 万円で組まれた当初予算であります。歳入を見ると、自主財源比率は市税が 70 億円と低迷していることもあって、35.6%と 0.5 ポイント悪化であります。ただし、依存財源のうち市債を 23 億円ほど減らし、1.1 ポイント改善しようとしている。市債残高を 20 億円ほど減らし、400 億円を切るように努めていることは評価に値する。しかし、資金繰りに窮している予算組みであることは明白であります。

一方、歳出を見ると、経常比率は上昇し、財政の硬直化は進んでいる。補助費は 48 億円を超え、前年よりも 7.2 ポイント上昇している。公債費は 45 億円ほどと前年よりも 0.5 ポイント減ったが、依然として高水準である。また、他会計への繰出金は 21 億円ほどと前年よりも 6 ポイント減らしたが、国保会計、水道会計、下水道会計、そして病院会計とも資金繰りに窮している。これは一般会計と同じ状況である。目的別歳出を見ると、例年のごとく民生費、衛生費、

教育費など必要な部分に予算づけがされている。

しかし、委託料の点で全面賛成できない予算づけが行われている。1つはC C R C 関連業務委託料 1,296 万円であり、2つにはグローバル I T パーク推進事業費の各種業務委託料 648 万円である。いずれも南魚沼市まちづくり推進機構、略称MMD O に委託される。そもそもこの機構は、平成 28 年 9 月 27 日、地方創生推進交付金実施計画を内閣総理大臣宛てに提出し、5 か年の計画として認可されたものを土台としている。計画終了時、つまり平成 33 年 3 月末に C C R C 施設への入居者を含め、移住者を 400 人増加させること、同じく計画終了時に C C R C 施設及び周辺での起業・創業や、企業・事務所の増加件数を 50 件増加させるという評価指標を掲げてこの計画はスタートした。

こうした流れの中で地域再生計画に基づく移住・定住関係サービスや地域活性化を進める法人として南魚沼市まちづくり推進機構は誕生した。この法人の主要な目的は、C C R C 連携事業作成業務を市から委託を受けて実施することである。さらに居住施設を責任を持って運営し、行政と連携しながら施設入居者の社会的活動を支援する役目も負って、この機構は誕生したわけであります。

この地域再生 5 か年計画は、平成 30 年 3 月に市議会全員協議会において事業内容、実績、効果等を報告し、議会内で議論された内容を反映させ、事業効果を高めると申請計画には記されているが、実行されなかった。この機構は、誕生以来約 2 年間、統括責任者が 2 名続けて辞任をし、事務員のみ体制となっている。平成 31 年度からは、市の担当課が週に 3 日、打ち合わせ、協議をしながら市の委託事業を行うという予算組みである。地域再生 5 か年計画に記された推進母体とはかけ離れた現状を見ると、こういう形が市の委託事業とは言えないことは担当部署も十分認識していると思う。それでも議会承認が得られると考えるの予算提出は、議会軽視と言わざるを得ない。しかし、交付金に頼らなければ事業が行えない南魚沼市の実情を考えると、地方再生計画の根幹をなす C C R C 関連事業の推進母体である南魚沼市まちづくり推進機構のまさに再生を期待するしかない。

そして 3 つには、市長政策的事業の 2020 東京オリンピック・パラリンピックでの南魚沼の魅力発信である雪の魅力発信業務委託料 1,752 万 2,000 円である。さいたま市との共催を当て込んでいる事業や雪室商品の P R は、相変わらず雪を現地に運んでの出店事業である。詳細はこれからと言いながら 1,000 円単位まで予算づけがされているのに、積算根拠が示されないのは、これも議会軽視と言わざるを得ない。関東圏へ雪を運んでの事業はコストがかかりすぎる。数年間も続けられる事業ではない。逆に関東圏から南魚沼市へグリーンシーズンに雪関連の行事で誘客するという発想に切りかわることを期待する。市内で雪を活用した営業に取り組んでいる民間との連携強化を図っていくことも期待をする。

以上、金額は小さくても、市の目玉と言っている事業に大きな不安を持っているが、ほかの施策を見れば、必要などころに精いっぱい予算づけをした、まさに限りのある予算を熟慮の上、予算組みしたと評価をして賛成の討論としたいものであります。

最後に、懸案である公共施設総合管理計画実施計画を早期に示し、新ごみ処理場建設地選定

にめどをつけることを要望して、討論の結びとするものであります。

○議 長 討論を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって討論を終わります。

○議 長 採決いたします。第7号議案 平成31年度南魚沼市一般会計予算、本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

起立多数。よって、第7号議案は原案のとおり可決されました。

○議 長 お諮りいたします。本日の会議はこれで散会としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定しました。

○議 長 本日はこれで散会いたします。

次の本会議は3月15日、午後1時30分、当議事堂で開きます。大変ご苦勞さまでした。

〔午後1時49分〕